

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.839 2024

2024年9月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

「泣いている人」が「笑うようになる」ために

——全国YMCA発達支援事業担当者会 基調講演より——

在日大韓基督教会横須賀教会牧師 きむ しんや
立教大学大学院特任准教授 金 迅野

「学校に行けない子どもとその親を苦しめているのは『普通』という言葉ではないか」。NPO法人「フリースペースたまりば」の理事長・西野博之さんは、その近著「学校に行かない子どもが見ている世界」で言っています。「普通」にとらわれずにありのままを受け止め、その子にあった環境を整えるだけで、子どもは明るさを取り戻していくということです。

学校でも社会でも、私たちは知らぬうちに「普通」を前提にしていることがあります。そして「普通」を中心になると、「例外」を排除するマインドが生まれます。健常者が普通だとすれば、障がい者は例外になります。学校に行くことが普通だとすれば、不登校は例外になります。「普通」という言葉には気をつけなければならぬと思います。「普通の子」「われわれ〇〇人」といった枠の外で、孤立して苦しんでいる人がいると思うからです。「共に生きる」と言いながら、その範囲が狭くなってないでしょうか。YMCAに携わる私たちは常に振り返ってみなければならないと思います。

もう一つ、「責任」という言葉にも深い注意をはらう必要があります。昨今、生きづらさを抱えている人が「自己責任」という言葉にしばられて、苦しんでいることがあります。しかしイタリアの社会学者アルベルト・メルッチは、「責任」には「応答する（responding to）」だけでなく、「引き受ける（responding for）」という側面があると指摘しています。社会の中で個人が何かを受け止め、他者や社会に応答すること。それが責任ですが、人生の歩みの中では、一人では背負いきれない困難に直面することもあります。そのとき、傍らにいる他者や社会の側がその人の困難を「引き受け」「応答する」ことも責任という言葉には含まれている。つまり、人の痛みや苦悩に触れた隣人や社会の側にも責任が発生していると。少なくとも私はそう思いたいですし、そういう責任を引き受けてこそ、YMCAらしい活動が生まれると思っています。

同時に、苦しむ他者と出会い、共にもがきながら乗り越えていく中にこそ、本当の喜びや成長があるのではないのでしょうか。現代は、自分の欲望を満たすことに終始し、その障害となるものを排除しようとする傾向があります。韓国では数年前に、「障がい児を産んだ親は損だ」と、医師に損害賠償請求する訴訟が起きました。日本で2016年に起きた、相模原障害者施設での殺傷事件とも通じる発想です。人間がまるでパソコンの性能のように、何ができるかというスペックで計測され、切り捨てられる。そこには苦しみを分かち合うような出会い、他者と紡ぐ本当の喜びが欠けています。それはまた、私たち自身の生きづらさも生み出しているのではないのでしょうか。

聖書に「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」（ルカによる福音書6章21節）という言葉があります。これは、救いを約束するイエスのメッセージであり、キリスト教の根幹を表す言葉の一つです。キリスト教を基盤とするYMCAにとってもまた大切な言葉だと私は考えます。泣く人の傍らにいて、その痛みを受け止めて、アクションを起こす。泣いていた人が必ず笑うようになる、希望の約束が埋め込まれた社会を作り出すために、共に活動していく。これがYMCAのブランド価値だと思います。創始者ジョージ・ウィリアムズは、過酷な労働に疲れ切っていた青年たちに「幸い」が訪れることを願ってYMCA運動を始めました。これからもYMCAが社会の痛みを受け止め、疎外された人と関わり合い、希望を生み出す働きを広げ、深めていかれることを願っています。

（まとめ・編集部）

1月から6月までYMCAが支援を行った輪島市町野町の東陽中学校避難所で、代表者を務められた向面俊彦さんに、避難所での暮らしや今の町の様子を聴きました。(2024年7月18日インタビュー)

私が避難所に関わり始めたのは1月10日。寺地地区の区長として区長会の集まりに参加したところ、避難所運営について苦情や意見・課題があり、お手伝いできることがあればとサポートに入りました。私の自宅は倒壊を免れ、片付ければ寝ることができたため、寺地地区の避難先である東陽中学校の避難所にボランティアで通うことにしました。

当初の避難所は電気、水道、浄化槽が使えず、物資も少なく体育館内は土足で、自宅から布団・毛布等を持ち込んで200人が雑魚寝状態、眠れない人や風邪気味の人がいて、大変な状態でした。物資は直ぐには届かないため、避難者・支援者と協力して段ボールでお盆・下駄箱・引出しタンス、不要木材で洗濯機・乾燥機用の置台・外通路の段差解消等を行いました。

4月頃から他避難所との情報交換ができるようになりましたが、私たちの避難所では早い時期に解決した課題に手を焼いたり、もっと苦労している避難所が



洗濯機乾燥機代を廃材で作成した向面さん(後列右)と東京YMCA中里さん(後列左)、平塚さん(前列右)、元市職員の中村さん(後列右)

ありました。私自身代表者として、初めてのことに手探りで対応してきました。今振り返ってみると避難者・支援者皆さんの協力により、私たちの避難所運営はベストだったと思います。YMCAの皆さんには長期間、ご支援いただきありがとうございました。

今、町野町では仮設住宅の建設が進み、この避難所は8月末に閉鎖となる見込みです。一昨日には主要道路が開通しましたが、公費解体はこれからです。やっと工事業者と打合わせをしましたが、具体的な工事計画もなく、街並みは震災直後とあまり変わりません。

農業・林業の再開もまだまです。割れた用水路やヒビで水が抜けてしまう田んぼもあり、再開できたのは数軒だけ。従事する人が減ってしまう前に復活できればと思いますが、時間がかかります。仮設に入居した人からは、狭いけれども「プライベート空間が確保できて落ち着いた」という声が聞かれる一方で、すでに輪島市では孤独死が起きていますから、注意が必要です。

復興には時間がかかります。10年経ってもどれだけ復旧できるのか、気が遠くなることもあります。普通の暮らしを取り戻せるように一步一步進めていきます。私自身、自宅以外の作業場等6棟の再建も難しい状況ですが、町野町にお越しの際にはお声かけください。またYMCAの皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

▼能登半島地震 支援活動の近況はこちらから
https://www.ymcajapan.org/noto_sien/



第13回 日本YMCA同盟協議会 「Vision2030」に向けて、歩み出す



年に一度、日本YMCA同盟の事業報告・計画等について協議する「日本YMCA同盟協議会」が6月15日～16日、御殿場のYMCA東山荘で開催され、加盟する34の「都市YMCA」と37の「学生YMCA」を代表する代議員等120人が集いました。今回は2024年の事業計画の中核となる「世界YMCA Vision2030」について、計3時間におよぶセッションも実施。2016年に始まったブランディングプロジェクトから「日本YMCA中期計画」を経て「Vision2030」に至った経緯と主旨を中道基夫氏(神戸YMCA/日本YMCA同盟理事)と共に確認した上で、事例の共有や分団協議を行い、自分は何ができるかを一人ひとりが考え、歩み出す機会となりました。

2日目には、ウクライナ避難者支援活動と、能登半島地震の被災地支援活動の近況報告もあり、日本で避難生活を送るウクライナの学生4人が登壇。日本の大学に進学して「JAXAで働きたい」「国際政治学を勉強したい」とそれぞれの目標に向けて努力している近況とともに、今年度末には国による生活支援が打ち切りになる不安や、本国に残る家族を思う気持ちなども語られました。

能登半島地震については、これまで支援活動に携わったスタッフからの報告とあわせ、輪島市の避難所とオンラインでつないで現地の声を聞き、一日も早く落ち着いた暮らしが取り戻せるよう、会場からエールを送りました。

2日間の学びと協議をとおし、今後さらに地域の課題に応える働きを展開していく必要を確認し合い、また11月の「日本YMCA大会」での再会を約束して、それぞれの帰路につきました。



マンガで読む

「デジタルと上手につきあうプロジェクト」

子どもがインターネットを利用する時間数は年々増えており、2023年度の子ども家庭庁の調査によれば、小学校高学年以上で平日1日4時間57分。そのうち娯楽のための利用は約3時間にのぼっています。中にはゲーム・スマホ依存症になる子どもも少なくないなど、社会問題にもなっています。

横浜YMCAは2021年度からこの問題に取り組み、スポーツ庁や文科省の委託を受けて『デジタルと上手につきあうプロジェクト』を実施。日本初のインターネット依存外来を開設した久里浜医療センターの臨床心理士・三原聡子さんをはじめ、神奈川県立保健福祉大学の作業療法士・笹田哲さん、児童精神科医の森昭憲さん等と共に、セミナーやキャンプを行っています。

ここで得られた結果を多くの方に知ってもらいたいと、昨年に続き2冊目となるマンガ形式の報告書を作成しました。依存症を防ぎ、子どもたちが心身ともに健康な生活を送るためのポイントを、読みやすく紹介しています。ぜひご活用ください。(ダウンロード無料)



https://www.ymcajapan.org/about/vision2030/digital_p



第23回 日本YMCA大会のご案内

今大会のテーマは「Link! ～[私]、YMCA、世界、そして未来～」。
全国から集まった11名のコースによる実行委員会を中心に準備が進められています。ぜひご参加ください。詳細はホームページから。

■日時／2024年11月15日(金)～17日(日)

詳細はこちら

■会場／YMCA東山荘(御殿場市)

<https://www.ymcajapan.org/assembly/>

